

函館市指定有形文化財

アイヌ風俗12ヵ月屏風

七月 月下漁撈の図

平沢屏山筆

屏山は文政5年(1822)南部韓貫郡大迫村に生まれ、22,3才の頃箱館に移住した。

はじめ絵馬などを描いていたが、当時の箱館の豪商福島屋杉浦嘉七が彼の腕前を見込んで、日高・十勝へ行かせ、アイヌと共に暮し、その実生活を観察させた。

これが後年アイヌ絵の第一人者となる基となった。眉毛、目、足などアイヌの特徴をよくとらえている。

これは七月の図で、月下河中に高台を設けて座り、河を遮断して開口部で網をもって、河をのぼってくる鱒を漁っている図である。

この図は漁業史上貴重な資料であるといわれている。



青森県「陸奥湾」海洋調査* (昭和47年度)

昭和46年度にひきつづき昭和47年度陸奥湾海洋調査を行ったので、その概要を報告する。

一般に博物館の調査活動(委託調査など)によって得られた資料は基本的には展示を前提としたものである。津軽海峡は北海道の自然と文化を考える場合きわめて重要である。陸奥湾調査の目的の1つは、いかえれば「北海道と本州を考える将来展示のための調査収集」である。

46年度は青森県水産増殖センター所属の白鳥丸を使って主として小湊、浅虫の沿岸部の水深20メートル以浅の調査を行なった(本誌, 72, No. 4に紹介した)

今回は北海道大学水産学部調査船「うしお丸」を使用して図のように陸奥湾全域22ヵ所のステーションの底生生物の調査を行なった。本調査は函館から北大水産学部久新健一郎助教授と函館博物館が参加して行なわれた。

調査期日; 昭和47年5月27日、28日

使用船舶; うしお丸、97.8トン

採集漁具; うしお式改良エビけた網3分曳(速力1浬)

本調査で採集された生物は藻類をのぞきエビ、ヒトデ、ウニ、ゴカイ、貝など総個体数177,800点におよび、船上で固定し、函館の北大水産学部資源学教室に持ち帰り、ソーテングが行なわれた。

博物館は貝の調査を担当した。詳細な報告は別の機会にゆずり、貝類の概要を報告し参考に供したい。

本調査で採集された貝類は35種である。採集個体数の多い11種を別表に示した。その中ローソクツノガイが58%、チヨノハナガイが12%、クチキレツノガイ類(単種)が11%キララガイが9%、キタノフリソデガイが3%であり、以上の5種が92%を占めている。

ローソクツノ

ガイ、チヨノハナガイ、エゾイシカゲガイの3種は調査地点全般にみられたが、チヨノハナガイ、エゾイシカゲガイは深みのところに多くみられた。

キタノフリソデガイはst. 4、5、14、22と湾の入口付近の50メートル以深で採集された。従来浅虫、小湊の沿岸調査では出現しなかった種で深みのものであろう。

ヒザラガイ類はst. 14に集中してみられた。この類の出現は底質と関連があるものと考えられる。

前年同期の小湊〜清水川、浅虫沿岸で出現した種類数は53種であり、共通種は19種である。

つぎに本調査で採集された貝の種名はつぎの35種である。

() 内は採集個体数。

巻貝; コウダカスカシガイ (38) モモイロハナヅトガイ (2) ネジヌキ (1) エゾタマガイ (9) ツノオリイレガイ (11) コウダカマツムシ (4) モスソガイ (12) コウシフタマンジ (1) マメウラシマガイ (3)

角貝; ローソクツノガイ (1612) Siphonodentalium sp. (308)

二枚貝; キララガイ (237) キタノフリソデガイ (76) アブラキヌタレガイ (1) アカガイ (1) エゾヒバリガイ (18) ホトトギスガイ (5) ムラサキイガイ (2) Modiolus sp. (1) ホタテガイ (1) ツキガイモドキ (2) エゾイシカゲガイ (51) スノメアサリ (1) ケシヨウシラトリガイ (1) チヨノハナガイ (346) クチベニデ (8) ハナシガイ (7) フジタニコハクノツユ (11) Montacutoma mu tsuwanensis (3)

ヒザラガイ類; エゾサメハダヒザラガイ (10) キタノサメハダヒザラガイ (5) エゾヤスリヒザラガイ (1) ハコダテヒザラガイ (16) アオスジヒザラガイ (1) ババガセ (6)

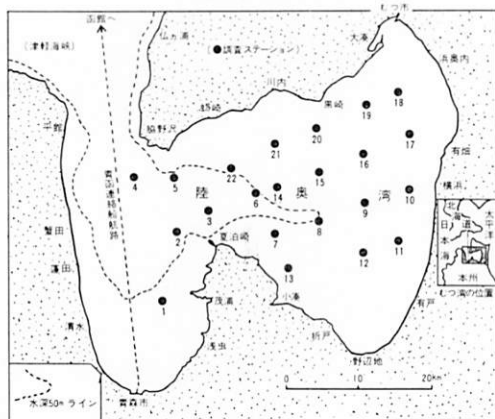
以上貝類総計2,812個体(死殻はのぞき生貝だけを対象とした) (館長: 石川政治)

* 昭和47年度太平洋北区栽培漁業漁場資源生態調査の委託による。同上共同調査者; 青森県水産増殖センター直江春三、小川弘毅、早川 豊、小倉大二郎、高橋邦夫、東北水研遊佐多津雄、北大水産学部久新健一郎、函館博物館石川政治。



調査船「うしお丸」北大水産学部所属 (S47.5.27青森港で)

陸奥湾調査ステーション略図





キタノフリソテガイ
(st.3 深さ52m採集)

函館博物館の市民講座

昭和48年度の市民講座が開かれておりますが、今年度は皆さんのご希望により入門的なものに重点がおかれています。

考古学 「北海道時代通論」 (函館水産高校教諭 金田 功)
※先史・縄文・統縄文・擦文・有史の各時代を本州の時代区分と比較しながら話をすすめている。〈5回〉

「みなみ北海道の遺跡」 (函館中央警察署 小林政喜)
※道南の代表的遺跡について詳しい説明がなされる。〈4回〉

歴史 「箱館戦争」 (五稜郭分館 西田祐一)
※箱館戦争について博物館所蔵資料を中心に説明がされている。〈7月まで3回〉

民俗 「みなみ北海道の民俗」 (函館高専助教授 渋谷道夫)
〈11月より4回〉

美術 「陶磁器について」 (五稜郭タワー資料館々長 武内収太) 〈8月より4回〉

生態 「みなみ北海道の植物分布」 (南北北海道自然保護協会々長 宗像英雄)
※森林・高山植物などの分布についての講話がすすめられている。〈10回〉

入館者統計

昭和48年度特別展

区 分	松前波響アイヌ絵展 (48.4.29~6.10)		
	個 人	団 体	計
大 人	3,722	844	4,566
小 人	1,519	14,223	15,742
計	5,241	15,067	20,308

陸奥湾調査地点 (May1972)

地点	月 日	時 刻	水深(m)	位 置 Lat.(N) Long.(E)
1	May 27	09h-01m	46	40-56.5 140-48.0
2	"	10h-05m	50	41-01.2 140-49.4
3	"	10h-40m	52	41-02.9 140-52.4
4	"	11h-40m	62	41-05.4 140-44.9
5	"	12h-13m	52	41-05.4 140-49.0
6	"	13h-06m	53	41-04.3 140-57.2
7	"	13h-43m	46	41-01.1 140-59.0
8	"	14h-27m	49	41-02.2 141-03.0
9	"	15h-00m	45	41-03.2 141-07.5
10	"	15h-38m	35	41-04.2 141-11.9
11	"	16h-10m	36	41-00.6 141-11.2
12	"	16h-49m	43	40-59.8 141-07.3
13	"	17h-18m	36	40-59.1 141-02.9
14	May 28	08h-35m	49	41-04.1 140-58.9
15	"	09h-18m	46	41-05.4 141-03.2
16	"	09h-50m	40	41-06.8 141-07.5
17	"	10h-18m	33	41-08.2 141-12.2
18	"	11h-00m	29	41-11.2 141-11.4
19	"	11h-30m	23	41-10.4 141-07.8
20	"	12h-06m	30	41-08.7 141-03.0
21	"	12h-33m	41	41-07.6 140-59.0
22	"	13h-07m	50	41-06.3 140-54.4

陸奥湾貝類の類別出現比率と順位

1972. 5 月				1971. 5 月 小湊~清水川				1971. 5 月 浅 虫			
種 類	%	出現 地点		種 類	%	出現 地点		種 類	%	出現 地点	
ロウソクツノガイ*	57.5	18		カミシカイコガイダマシ	93.1	7		コウダカマツムシ*	16.6	3	
チヨノハナガイ	12.3	18		チャイロタマキビ	1.4	1		ヤマダシタダミ	12.8	1	
クチキツノガイ類	11.0	3		コウダカマツムシ*	0.7	14		アカマダラヒザラガイ	5.7	3	
キララガイ*	8.5	8		ロウソクツノガイ*	0.7	6		ナガニシ	3.6	2	
キタノフリソテガイ	2.7	9		ツノオリイレガイ	0.7	7		クラギシロガサ	2.3	2	
エゾシカゲガイ	1.8	14		コウダカスカシガイ*	0.5	10		エゾサメハダヒザラガイ*	1.9	1	
コウダカスカシガイ*	1.4	6		ウスヒザラガイ	0.4	6		ベッコウシロガサ	1.0	2	
エゾヒバリガイ	0.6	5		クラギシロガサ	0.3	8		ハコダテヒザラガイ*	1.0	1	
ハコダテヒザラガイ*	0.6	2		ヤマダシタダミ	0.3	7		エゾチグサガイ	0.9	1	
モスソガイ*	0.4	6		エゾサメハダヒザラガイ*	0.3	9		カミシカイコガイダマシ	0.9	1	
ツノオリイレガイ	0.4	3		ハコダテヒザラガイ*	0.2	6		キタノサメハダヒザラガイ*	0.7	2	
総個体数	2812			総個体数	23995			総個体数	352		

※1971・1972年、両年の共通種

昭和47年度常設展示 (48.4.1~48.5.31)

月別	区分	本 館			分 館			郷土資料館			総 計
		個人	団体	計	個人	団体	計	個人	団体	計	
4月	大人	746	0	746	2,758	43	2,801	220	0	220	3,767
	小人	655	0	655	1,115	0	1,115	113	0	113	1,883
	計	1,401	0	1,401	3,873	43	3,916	333	0	333	5,650
5月	大人				9,178	420	9,598	284	13	297	9,895
	小人				4,014	3,754	7,768	96	0	96	7,864
	計				13,192	4,174	17,366	380	13	393	17,759
累 計		1,401	0	1,401	17,065	4,217	21,282	713	13	726	23,409

博物館日誌抄

(48.2.1~48.5.31)

48.2.1 厚沢町町史編さん委員新明清氏来館(分館)

- 8 市内宝来町賀店中島氏より「非常用整理箱」の寄贈を受ける(資料館)
- 13 陸奥湾調査打合会議が芳明荘にて行なわれ、館長出席する。午後一行7名館内見学。
- 16 青森教育庁郷土館開設準備室天間勝也氏他1名来館(本館)
- 17 博物館協議会が開催される(本館)
- 20 北見市立北見郷土博物館大西庶務係長来館(本館)
 - 〃 北海道開発調整部池田主事他1名来館(本館)
 - 〃 創価学会副理事長柳谷正一氏来館(本館)
- 24 市民講座(植物)が集会室にて行なわれる、講師宗像和彦、林勝也の両氏(本館)
- 25 市民講座(考古)が集会室にて行なわれる、講師金田功氏(本館)
- 3.1 箱館戦争関係資料調査のため茅部郡森町郷土資料館その他を調査(分館)
 - 4 通商産業省工業技術院主任研究官神戸信和氏来館(本館)
 - 6 小樽博物館竹田学芸員資料研究のため(本館)
 - 8 道立開拓記念展示課研究職員畑山義弘氏が交通局資料の件で(本館)
 - 10 市民講座(植物)が集会室にて行なわれる、講師林幸男、乳井幸教の両氏(本館)
 - 15 仙台市教育委員会社会教育主事岩崎和也氏館内見学(本館)
 - 16 日本博物館協会評議員会出席のため館長東京に出張(本館)
 - 18 市民講座(美術)が集会室にて行なわれる、講師武内収太氏(本館)
 - 22 伏原紡績社員一行8名が、館内見学、青年の家佐藤係長案内する(本館)
 - 30 余市町水産博物館長武藤満氏来館(本館)
- 4.2 「箱館戦争資料調査」江差に於て開陽艦の件調査(分館)
 - 3 七飯郷土資料館長川清悦氏来館(本館)
 - 6 平凡パンチ編集部藤田記者来館(資料館)
 - 7 北海道教育長山本武氏館内見学(本館)
 - 8 報知新聞今村記者来館(資料館)
 - 〃 北海学園大学学長高倉新一郎氏他2名来館(本館)
 - 16 「箱館戦争資料調査」七飯峠下頂上の榎本軍構築の台場合同調査(分館)
 - 17 札幌市議会議長他4名来館(函館市議会佐藤庶務課長案内)(本館)
 - 20 北海道教育庁渡島教育局長片岡允氏札幌転勤挨拶のため来館(本館)
 - 29 特別展「松前波響アイヌ絵展」開催(本館)
 - 〃 市民講座「松前波響について」が集会室にて行

われる。講師花光春之助氏(本館)

- 30 波響筆絵画の件について和田吉平氏他1名来館(本館)
 - 〃 熊石町岡田義雄氏(夷酋列像の図貸出者)来館(本館)
- 5.1 加藤忠夫氏来館(本館)
 - 2 金森商船渡辺勝三氏来館(資料館)
 - 4 市内高校教師地理研究会13名来館(資料館)
 - 5 渡辺熊四郎氏、小島昌平氏、北大水産学部の久新氏等特別展観覧のため来館(本館)
 - 7 三ッ谷教育長、中山教育次長、阿部社会教育課長特別展観覧のため来館(本館)
 - 8 NHKテレビ番組「ぼくの見た箱館戦争」製作のため資料撮影
 - 9 北海道教育庁振興部長他3名来館(本館)
 - 12 科学教室(天体)午後2時講師津川軍次郎氏参加者75名(分館)
 - 〃 児玉マリ氏館内見学のため来館(本館)
 - 15 岡山大学教授近藤義郎氏来館(本館)
 - 17 開拓記念館大石雅二氏資料借用のため来館(分館)
 - 19 科学教室(植物)午後2時講師林幸男氏参加者33名(分館)
 - 20 表千家流同門会茶会杉花亭にて行われる(本館)
 - 〃 市民講座「箱館戦争Ⅰ」講師西田祐一分館係長(分館)
 - 21 札幌市議会事務局次長松浦陽一氏来館(本館)
 - 24 カナダコロンビア大学教授チャールズ・ボーデン氏(考古学者)来館(本館)
 - 26 科学教室(昆虫)午後2時講師中島康二氏参加者30名(分館)
 - 30 開拓記念館森田、山田、氏家氏来館(本館)
 - 31 北太平洋貝類整理のため千葉蘭児氏来館(本館)

レリーフ巧芸画貸出しのお知らせ

レリーフ巧芸画は、国内・国外の代表的作家によって描かれた名画から、直接制作した原画そのままの模造です。

当函館博物館では、逐次道南の文化施設・学校・美術同好の団体などに貸出しをしておりますので、ご利用下さい。

なお「市立函館博物館蔵 レリーフ巧芸画目録」がございますので、ご希望の方は学芸係へお申込み下さい。

- ・収蔵点数 102点
- ・貸出点数 1回25点以内
- ・期間 15日以内(輸送日を含む)

Hakodate City Museum News

SARANIP—サラニップー No.8 1973.7.1.発行
編集・発行 市立函館博物館(T E L 0138-23-5480)
北海道函館市青柳町・函館公園内(〒040)